

あなたの税金は、

安心して暮らせる町づくりに役立っています。

## 納期内完納にご協力を

今年も11月11日から17日までの「税を考える週間」の期間中、全国各地でPR活動が展開され、本町でも各戸訪問による納税啓発や税に関する書道の作品展示などさまざまな行事が行われました。

### 臨戸啓発 12日

町納税貯蓄組合連合会、町商工会・青色申告会・法人会積丹地区会などから計24人が6班に分かれ、幌武意町、入舸町、日司町、野塚町を各戸訪問し、納期内完納にご協力をお願いしました。

また当日は、余市税務署員も激励にかけつけていただき、一緒に啓発に参加されるなど、より有意義な活動となりました。

後志5か町村より339人の応募があり、本町からも93人が応募しました。

その結果、町内から6人が見事入選を果たし、優秀作品として11月12日から19日まで北海道用金庫本店ロビーに展示されました。

また、各学校より推薦のあった作品33点と北後志入選作品6点は、11月26日から30日まで美国家郵便局に展示されました。

なお、北後志入選作品については、次のとおりです。

#### 【金賞】

野呂 大空さん（美国小2年）

#### 【銀賞】

畑谷 守治くん（美国小2年）

#### 【銅賞】

工藤 大陸くん（余別小3年）

畑谷 圭治くん（美国小4年）

茂木依里華さん（美国小6年）

生駒 紗希さん（野塚小6年）



### 小・中学生の

#### 「税に関する書道」作品展

#### 町内から6人が入選

「税に関する書道」は、小中学校の租税教育推進の一環として、北後志地区納税貯蓄組合連合会が主催し、この週間にあわせて催されるもので、今年も北

## MOA美術館児童作品展

### 町内小学校児童3人が入賞

子どもたちの未来に美を通して心の教育（美育）を進め、心豊かな人間をつくることを目的に、平成元年から開催されている「第19回MOA美術館児童作品展」に、今年も小樽市を含む北後志管内の児童から絵画203点と書写87点が出展され、町内からも4小学校から合わせて20人を応募しました。

絵画の部では、入舸小学校4年の竹谷四季さんが積丹町長賞を受賞、海と船の灯りを区別するのにつけました。海の色を混ぜたいへんだったけどうまくできました。」と話しています。



大坂航太くん（左）と杉野弘幸くん（右）

た。

また、書写の部では、日司小学校の児童2人が入賞、同小1年の杉野弘幸くんが積丹町教育委員会教育長賞を、同小5年の大坂航太くんが古平町教育委員会教育長賞をそれぞれ受賞しました。「か」の字がうまく書けました。もっと練習してうまくになりたいです。（杉野くん）、「月」の字が気に入っています。入賞と聞いたときはうれしかったです。（大坂くん）とそれぞれ受賞の喜びを話していました。受賞おめでとうございます。



竹谷四季さん

また、書写の部では、日司小学校の児童2人が入賞、同小1年の杉野弘幸くんが積丹町教育委員会教育長賞を、同小5年の大坂航太くんが古平町教育委員会教育長賞をそれぞれ受賞しました。「か」の字がうまく書けました。もっと練習してうまくになりたいです。（杉野くん）、「月」の字が気に入っています。入賞と聞いたときはうれしかったです。（大坂くん）とそれぞれ受賞の喜びを話していました。受賞おめでとうございます。

## 商店街に歓声と笑顔 大盛況の「はしご酒大会」

積丹飲食店組合（別所範一会长）は、町民への日頃の感謝と町の活性化を図ろうと10月26日、美国町で第3回「はしご酒大会」を催し、町内外から訪れた230人が飲食店を渡り歩き、商店街は時ならぬ賑わいを見せていました。

同大会には、美国町内の飲食店12軒が協力、参加者は3コースに分かれて指定された4店を1時間15分かけて回るもので、4店のうち1店はすし店が入り、自慢の旬のネタ5カンが出され、積丹の海の幸と酒を楽しむのも魅力の一つとなっています。



参加者は、午後7時からのスタートと同時に、指定された店に分かれ、すしやザンギ、けんちん汁など各店が趣向を凝らしたお通しをおいしそうにほおばりながら、お酒を酌み交わすなど店内から歓声と笑い声が漏れ聞こえていました。

制限時間内にゴールした後は、総合文化センターで町内の飲食券や1000円のつかみ取りなど景品102本が当たる大抽選会が行われ、参加者のほろ酔い加減も相まってか、抽選のたびに悲鳴や歓声があがり、最後には急ぎよ、同組合から、つかみ取りを1本追加するプレゼントに会場は大きな歓声と拍手に包まれ盛り上がりを見せていました。

## 歴史と伝統を未来へ

## 入舸小学校

入舸小学校（河井英博校長、児童数5人）で11月11日、開校120周年を祝う記念式典が行われ、在校生や教職員、保護者、同窓生、地域住民をはじめ、歴代校長やゆかりの先生、PTA関係者など約120人が出席して節目を祝いました。

増して学校・家庭・地域の相互理解と信頼を基盤に、教育活動の推進に努める。」とあいさつ。記念協賛会の杉山賢会長が120年を振り返りながら「児童数が減少する中、運動会や学芸会などでは地域が一つになって盛り上がる。たとえ少ない人数でもできるという勇気をもらい、心に残る忘れられない思い出。」と地域の方への謝辞を述べました。

同校体育館で行われた式典では、河井校長が「美しい自然と感受性豊かな心を育てる入舸の伝統を守り、これまでも

また、協賛会長から歴代校長8人や功労者4人へ、学校長から歴代PTA会長9人や協賛会長へそれぞれ感謝状が贈られました。式典では、児童から映像と呼びかけ発表があり、スクリーン



に映し出される町の四季やさまざまな学校行事の映像に合わせ、鍵盤ハーモニカによる「ふるさと」の演奏や学校紹介が行われた後、「ここで育んだ心をつまでも忘れない」という思いを込めたみんなの大好きな歌「心から心へ」を児童全員で歌い上げました。

最後に、みんなで力を合わせ、入舸の歴史と伝統を未来へとしっかり引き継いでいきます。」と地域の方への感謝と未来への決意を力強く元気に宣言すると、出席者から大きな拍手が送られました。



引き続き行われた祝賀会では、児童やPTA、地区婦人会の舞踊のほか昭和53年当時のお祭りの様子を収めたビデオが上映されると出席者は感慨深げで当時を懐かしみながら旧交を温めていました。

同校は明治20年、日司簡易小学校分教場として開校、昭和22年に現校名に改称。これまでに2、400人を越える逸材を送り出してきました。